

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径

9月号

2012  
SEPTEMBER  
No.47

今月のこぼし

## 棚から牡丹餅

ぼた餅は彼岸に仏前に供えるもの。棚から落ちてきたぼた餅が開いていた口に落ちてきたということから、思いがけない幸運が舞い込んでくること。「棚ぼた」ともいう。災難に遭遇する意味では使わない。

今月の記念日

## 救急の日(9月9日)

9(きゅう)と9(きゅう)の語呂合わせです。救急業務に対する国民の理解を深め、救急医療関係者の意識の高揚を目指して、昭和57年(1982年)に厚生省(現在の厚生労働省)と消防庁が制定しました。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

今月の  
テーマ

## 異学年・異校種の交流活動

- 子どもたちは異学年・異校種の子どもたちと交流することによって、人間関係を広げ、人間関係調整能力を育てることができます。
- 異学年の合同授業や幼稚園・保育園、中学校、特別支援学校などとの交流に当たっては、双方のねらいを明確にすることが大切です。

## なぜ、異学年・異校種なのか

子どもたちは通常同年齢の集団で学習に取り組み、学校生活を送っています。これに加えて、異学年や異校種の子どもたちとの交流活動をとおして、人間関係をさらに広げることが求められています。これには次のような背景や趣旨があります。

まず、地域などで異年齢の子どもたちが集団で行動する姿が見られなくなったことです。かつて、地域の遊び場ではがき大将といわれる年長の子どもが中心になって、さまざまな学年の子どもの行動を束ねていました。そこでは、年上の子どもへの接し方、年下の子どもへの指導の仕方を学んでいました。いまこのような人間関係はほとんど見られません。そのため、こうした活動の場を学校が意図的に用意する必要が出てきたのです。

また、子どもの人間関係が希薄になってきた背景には、兄弟姉妹が少ない家族が多いこと、地域環境の変化により生活安全の問題が出てきたことや子どもらしい遊びができにくくなっていること、ファミコンなどのゲーム機の開発に

よって室内での、しかもひとりで遊ぶことが多くなってきたことなどをあげることができます。

このようなことから、子どもの人間関係が同年齢に偏り、年上や年下の子どもたちとのかかわりや触れ合いが薄れ、結果として人間関係が狭くなり、人間関係の調整能力も十分育たないこととなります。これでは、多様な人々で構成されている社会を共に生きていくために求められる資質や能力が欠ける結果にもなります。

こうした背景や趣旨は、小学校と幼稚園や中学校、特別支援学校など異校種との交流にもいえることです。

## 具体的な交流活動を工夫する

人間関係は、具体的な交流活動を通じて形成されます。実際にかかわり合うことによって、教える・教えられる関係が成立します。トラブルに遭遇したときには、双方が調整しながら問題を解決することに迫られます。

複数学年での取り組みはこれまででもさまざまな工夫が行われてきました。例えば、生活科では1年生がアサガオを育てて採集した種子を、次年度に1年生

にプレゼントする活動が行われています。ここでは交流することにより、命のリレーが実現します。体育科では、運動会などに向けて異学年合同授業が行われています。ここでは相手を理解し相手の立場で接することの大切さを学び、助け合いの心が育ちます。

毎日の清掃活動を異学年で小集団を構成して実施している学校があります。小規模校などでは給食をランチルームなどで全校で食べている学校もあります。遠足や校外学習を複数学年や全校で実施している学校もあります。

また、異校種との交流活動には次のような取り組みが見られます。生活科では、幼稚園児や保育園児との交流が見られます。小学校の子どもに中学生が学習を支援する取り組みを行っている学校もあります。また、隣接する特別支援学校を訪問して、スポーツなど体育的行事や集会活動を行っているところもあります。さらに、3年の社会科(学校の周りの様子)の学習では、市内のほかの小学校と調べたことを交流し、理解を深めたり広げたりする取り組みを行っている地域もあります。

異校種の学校などとの交流活動は、実際に集まって行うほかに、メールや手紙、テレビ会議システムを利用して実施することができます。いずれにおいても、実施に当たっては、双方の学校や幼稚園などのねらいを明確に押さえ、双方にとってメリットがあるものとするのが大切です。また、たとえイベント的であっても、毎年定例化するなど継続して実施することが重要です。

# 教えて北先生

## 物を大事にできない子ども

**Q.** ノートや消しゴムを最後まで使い切らない子どもが大勢います。落とし物が目立つのも実態です。落とした物を取りにくることはほとんどありません。こうした物を大事にできない子どもには、どのように指導すればよいのでしょうか。

**A.** かつては、ノートや鉛筆、消しゴムなどの学用品を最後まで使い切ることが当然のように行われていました。物の豊かな社会になるにつれて、物を大事にできない子どもが増えてきました。それだけに指導の難しさとともに、指導の必要性を強く感じます。

指導のポイントのひとつは、学級活動や道徳の時間に教材を通して、物を大切にすることの価値や意味について子どもの心にしみ入る指導をすることです。物を大切にしている子どもの事例や、物の少なかった時代の人々の知恵や苦勞などを教材にします。

いまひとつのポイントは、物を生産したり届けたりしている人々の工夫や苦勞を具体的に理解・認識させることです。工場の生産現場を見学し、多くの人々が働いている様子を観察させるとよいでしょう。その結果、生活や学習に必要な物が私たちのところに届けられていることを理解させることができます。

このように、物を大切に使うことの意味や大切さについて、子どもの心に訴えるとともに、子どもの頭で理解させることが重要です。

このほかに、教師自身が物を最後まで大切にしていることを見せることも大切です。教師が率先垂範して行動している姿が重要な「教材」になります。

## 教育の動向

### 3学期制と2学期制

最近、やや下火になってきた話題のひとつに、学期の区切りがあります。わが国では、季節の変化なども考慮して伝統的に3学期制でしたが、学校週5日制の完全実施に伴い、授業時数の確保の観点などから2学期制に変更する学校が増えてきました。

平成23年度においては、3学期制を実施している小学校が約78%であるのに対して、2学期制は約22%でした。ここ数年、両者はほぼ横ばいに推移しています。ちなみに、中学校もこれとほぼ同様な数字です。ほんの若干で

すが、2学期制から3学期制に戻している中学校があります。

学期の区切りは、現在、自治体によってあるいは学校によって異なっているのが現状です。そのため、年度の途中で転校した子どもが学習内容の抜け落ちや重複、保護者に通知表などに一部戸惑いが見られるという指摘もあります。

制度が変更され、ある程度の年月が経つと、その制度に慣れていきます。制度が一旦スタートすると、見なおすことはほとんど行われれないのが現状です。学期の区切りのあり方について、これまでの実施状況を子どもや保護者の立場から、また指導の充実の観点から、総点検する時期にあります。



## コラム 北先生の授業力向上術

### 教材づくりを楽しむ

せっかく料理を作っても、それを美味しく食べてくれなかったり、食べ残したりすると、作り手はがっかりします。同じようなことは、授業で活用される教材についてもいえます。

教師が開発・作成した教材に、子どもたちが進んでかかわり、主体的に学習に取り組むようになってほしいと、教師はだれでも願っています。そのため、教師は子どもの教材へのかかわり方を工夫します。例えば、教材提示のタイミングをはじめ、学習活動や発問・指示など事前に計画します。

これらの工夫は大切なことですが、ここでは視点を変えて、もうひとつのポイントを考えてみます。それは教師自身が教材に対して感動し教材づくりを楽しむことです。教師が教材に価

値を感じることなく、子どもたちに主体的にかかわるように求めることは、そもそも無理なことかもしれません。

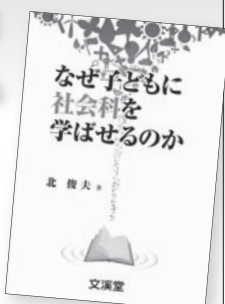
教師が教材に対して感動し、思い入れが強いほど、指導に熱が入ります。それは教師の表情や発言に表れ、子どもたちにも伝わっていきます。それを子どもたちは敏感に感じ取ります。

教材を開発するとき、その価値やよさをしっかり押さえ、子どもへの提示の仕方を考えながら、子どもたちがどのように反応してくるか、いろいろと想像を巡らすことは楽しいものです。教師が教材づくりを楽しむことは、教師の授業力向上につながります。



## INFORMATION

### なぜ子どもに社会科を学ばせるのか

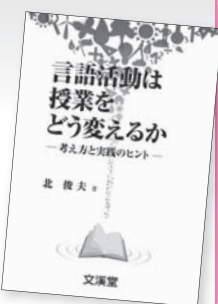


◎著者 北 俊夫  
◎定価 998円  
(本体950円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ

### 言語活動は授業をどう変えるか

—考え方と実践のヒント—



◎著者 北 俊夫  
◎定価 998円  
(本体950円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 112ページ

「教育の小径」の全てのバックナンバーをインターネットでお読みいただけます!

ダウンロードして印刷も可能です。  
お知り合いの先生にもぜひお勧めください。  
<http://www.bunkei.co.jp/2012/monthly.html>  
または「ぶんけい 教育の小径」で検索。

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2012年9月1日